



## 札幌市医師会の 広報活動について

札幌市医師会 理事  
かとう皮フ科クリニック 院長  
加藤 文博

札幌市医師会では市民に対する広報活動として、ホームページの公開、市民向け広報紙「健康さっぽろ」を発行しています。また、北海道新聞のフリーペーパー「オントナ」に健康スマイルのコーナーを設け、札幌市医師会の活動内容の紹介やイベントの告知を行っています。

医師会のホームページには一般ページと会員専用ページがあり、ひと月約15万件のアクセスがあります。一般のページからは医療機関情報マップ、休日夜間診療案内、市民向けの医学講座の案内、夜間急病センターの案内のほか、「健康さっぽろ」、札幌市医師会発行の「札幌通信」に掲載しているオピニオン、医政メモQ&Aを見ることができます。また、乳がん子宮がん検診の普及啓発にも力を入れています。

「健康さっぽろ」では市民からの希望の多い病気についての解説のほか、栄養、運動、休養法についてのアドバイス、さらに市民からの投稿などを載せ好評を博しています。「健康さっぽろ」は平成10年より年2回発行しており、各医療機関、調剤薬局のほか札幌市の各地区センター、図書館、郵便局、銀行、スーパーなど数多くの場所に無料配布しています。創刊時はカラーと白黒のタブロイド版で発行数は1万部でしたが、現在ではフルカラー12万部の発刊となっております。

「健康スマイル」は平成21年より「オントナ」の中に年に6回掲載しています。市民対話集会、市民医療フォーラム、市民公開講座、がん検診の普及、「健康さっぽろ」などについて紹介しています。

また、報道機関の皆さんに医師会の活動や正しい医学情報を得てもらうため平成10年から懇談会を年2回開催しています。当初は北海道新聞の記者をお招きしていましたが、平成16年からは朝日、毎日、読売、共同通信、日本経済新聞、北海道医療新聞のほか各テレビ局からも都合がつく限り担当記者をお招きし、医政の話題などを中心にディスカッションしています。

札幌市医師会は今後も市民に対しできる限りの情報を公開すべく、広報活動について幅広く展開してゆきたいと考えております。



## 千歳医師会の現状

千歳医師会 会長  
千歳佐藤整形外科医院 理事長  
佐藤 貢

千歳医師会は100名の会員で構成しています。昭和38年9月25日江別市外5郡医師会より分離独立してから50年目を迎えました。

この節目の今年4月より私が会長職を拝命しました。

千歳市の人口は95,000人で現在も若干ではありませんが増加している道内でも数少ない町です。日本で最大の自衛隊基地を有し、道内で一番若い町でもあります。

医療機関は、病院6、有床診療所3、無床診療所30余りです。無床診療所が圧倒的に多いのは最近の傾向でしょうか。私も開業して26年目ですが10年前無床にせざるを得ませんでした。看護師不足や有床診療所の情勢悪化などが理由です。

千歳市は道内の標準的な中型の市と考え、現在われわれの医師会が抱えている諸問題も皆さんの医師会に相通ずることも多いと思います。そこで千歳医師会の現在抱えている問題を分析してみました。

1)最大の問題は救急医療です。夜間救急は、原則PM12時までの受付、PM12時以降は救急車で搬送のみが受付です。月に数日空白日があります。2次救急も不十分です。一部の医療機関への負担も多く、会員、各医療機関、市役所と早急に協議して解決して行かなければなりません。

2)産科医不足です。市民病院産科のほか平成22年より産科開業が増えましたが、年間900件の出産には不十分です。

3)医師会の組織力の弱体化です。総会や行事を開催しても会員の参加は少数です。月に一度は研修会を実施して会員の知識向上を目指しています。新年会、ゴルフ大会等で親睦を深めています。

北海道医報12～3月号で特集「北海道の医療崩壊を立て直す」を拝見しました。全道各地の先生たちの毎日のご苦勞と獅子奮迅の活躍を偲びました。医師名義貸し、医局制度廃止、新医師臨床研修制度導入等、激動の10年と考えます。千歳医師会も、会員の結集力で諸問題を解決していきたいと思っております。